

## 第1章 滋賀県における文明開化 ー鉄道事始めー

滋賀県立大津高等学校 北川和樹

### 1 単元を貫く問い

- ・明治維新を通じて、日本はどのように変化したのだろうか。

### 2 育成したい資質・能力

- ・明治政府による諸政策のねらいや方針を踏まえ、社会や人々の生活にもたらされた影響・変化を多面的に考察し、表現することができる。

### 3 単元の流れ

#### 【第1次】明治維新

- ・戊辰戦争の展開・結果
  - ・中央集権の確立(版籍奉還・廃藩置県)
  - ・明治新政府の諸政策(地租改正・金融政策など)
- 新政府はどのような国家づくりを目指し、江戸時代と何が変化したのか考察する。

#### 【第2次】富国強兵

- ・四民平等
  - ・教育・軍事制度
  - ・殖産興業
- 新政府はどのように「富国強兵」の実現を目指し、人々はどのように反応したのか考察する。

#### 【第3次】文明開化

- ・欧米思想の広がり
  - ・文明開化
- 文明開化によって、人々の考え方や生活はどのように変化したか考察する。

#### 【第4次】**【本時】** 滋賀県における文明開化ー鉄道事始めー

- ・鉄道の役割
- なぜ、鉄道が必要とされたのか考察する。
- ・滋賀県における鉄道のあゆみ
- 明治時代に滋賀県の交通体系はどのように変化したのか考察する。

### 4 本時（4/4時間目）

主題 滋賀県における文明開化 ー鉄道事始めー

#### 《本時の目標》

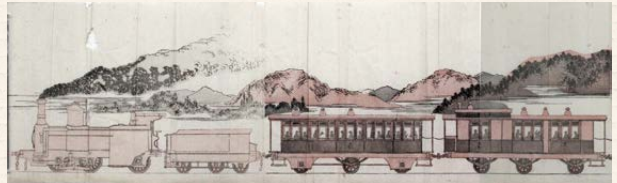
- ・鉄道の役割について公文書や絵図などの資料を活用

しながら考察し、滋賀県の交通体系の変化について文章で表現する。

#### 《本時の学習過程》

##### 【導入】

- ・文明開化に関連して、本日の学習内容が鉄道に関する内容であることを予告する。
- 図1-1「鉄道蒸気車駛走図」を提示する。



1-1 鉄道蒸気車駛走図  
明治4年6月【明と1(2)】

- ・現在の路線図を提示し、滋賀県内でいち早く鉄道が開通した場所はどこか予想する。

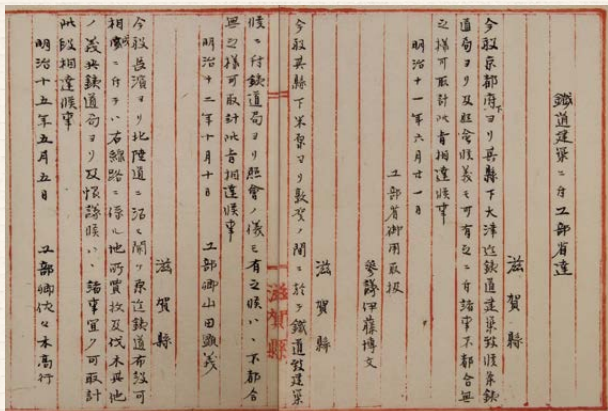
##### 【展開1】

- ・県内でいち早く鉄道が計画された場所を確認する。
- 図1-3「鉄道建築に付工部省達」より、「京都・大津」「米原・敦賀」「長浜・関ヶ原」といった地名や場所を確認し、白地図に記入する。
- \*タブレット端末があれば、「今昔マップon the web」で、明治時代の地形図と現在の地形図を比較し、鉄道路線の違いを確認する。

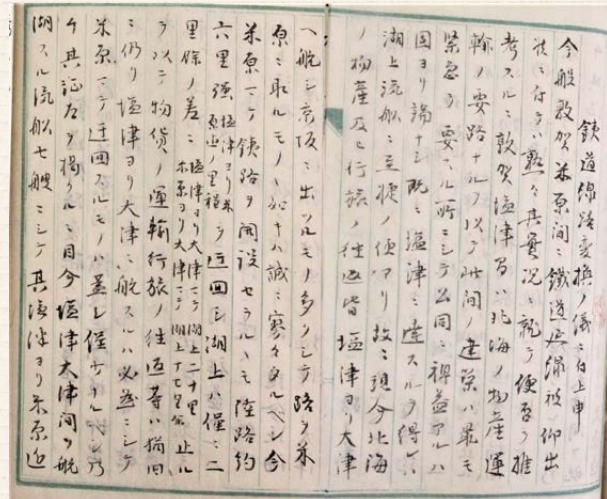


1-2 明治初期の鉄道計画線  
\*地図中の湖岸線は現在のものである





1-3 鐵道建築に付工部省達  
明治11年(1878)6月21日【明と3-4(1-1)】



1-5 鐵道線路交換の義に付上申  
明治12年11月17日【明お76-5(24)】

【問い】「なぜ、これらの地域では鉄道が必要とされたのだろうか？」

- ・明治時代に滋賀県で鉄道が必要とされた理由やその役割について、近世からの変化に着目しながら考察する。

→図1-4「湖岸を走る蒸気機関車」、図1-5「鐵道線路交換の義に付上申」から読み取った内容を根拠として、問いに対する自分の考えを文章でまとめる。

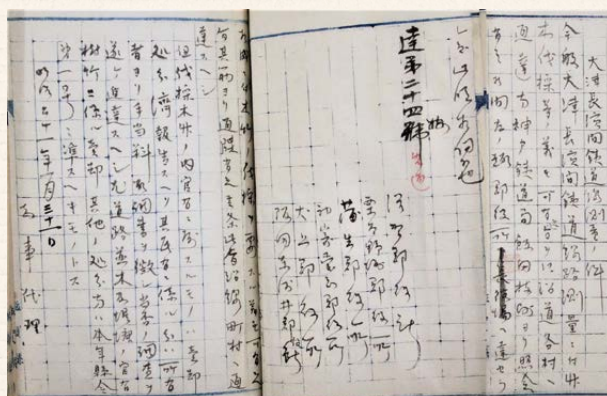
\*図1-4は、蒸気機関車の横に船で運ばれた米俵が積み上げられていることに着目させる。

\*図1-5は、以下の内容を中心に読み取らせる。

- ①敦賀ー塩津間は「北海ノ物産運輸ノ要路」とされ、鐵道敷設が急がれたこと。
- ②米原まで鐵道を敷設するよりも、塩津から湖上汽船を活用すべきであるということ。

\*実際にはこの意見書が採用されず、敦賀ー長浜ー関ヶ原間で鐵道が開通したことを補足する。

- ・長浜ー大津間は当初鐵道連絡船によって結ばれ、後に鐵道が開通したことを、図1-6「大津・長浜間鐵道線測量の件」を参考にしながら確認する。



1-6 大津・長浜間鐵道線測量の件  
明治21年1月31日【明い176(44)】



1-4 湖岸を走る蒸気機関車  
(個人蔵)

【展開2】

【問い】「明治時代に、滋賀県の交通体系はどのように変化したのだろうか？」

- ・水上交通から、水上・陸上交通の併用時代を経て、鐵道を中心とする陸上交通へと転換がはかられた経過や理由について論述する。

【まとめ】

- ・鐵道の開通によって、それまでの琵琶湖水運を中心とした交通体系が大きく変化したことを確認する。
- ・東海道線の開通以降、県内各地で鐵道敷設が進んだことを確認する。